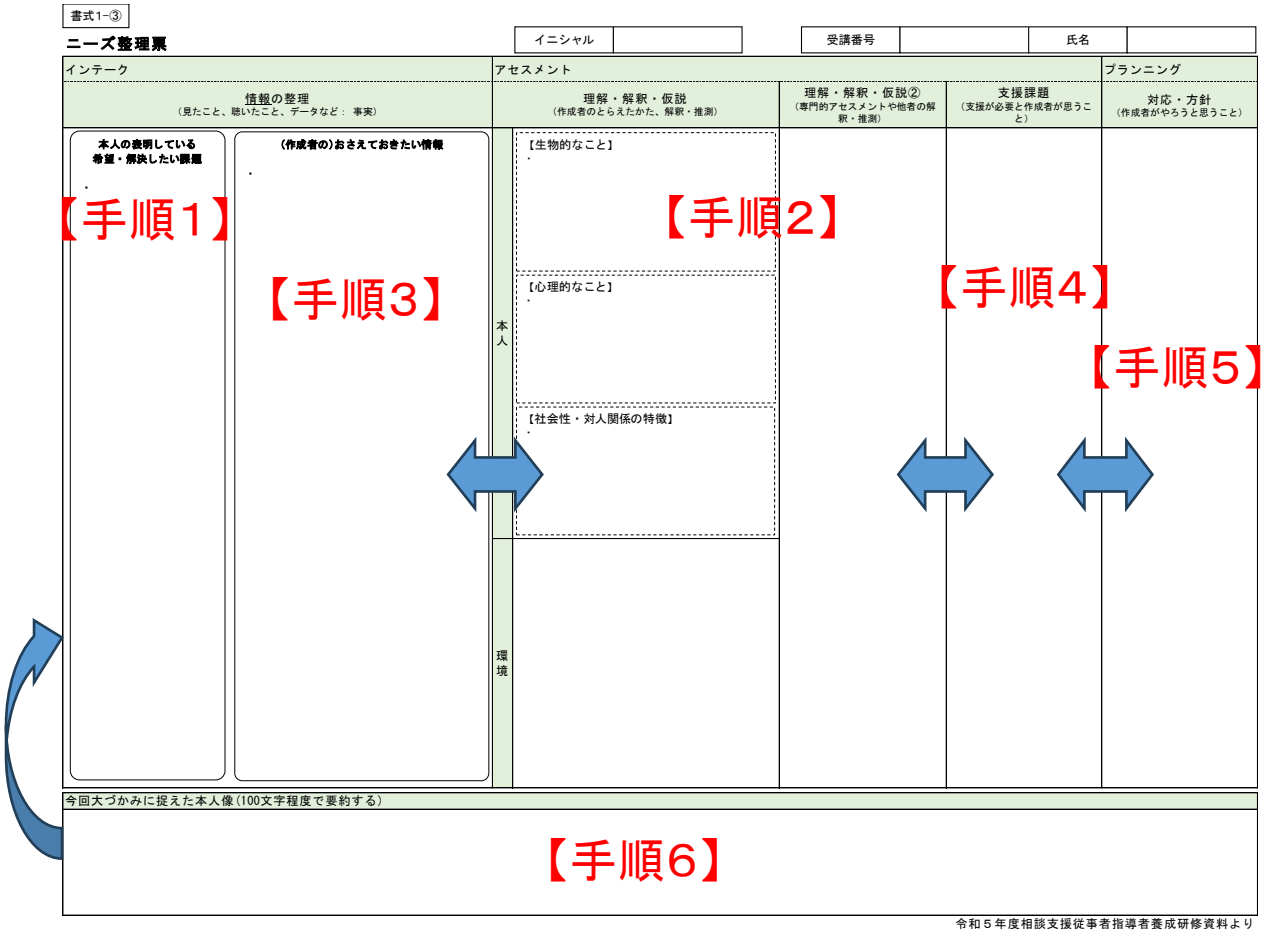
ニーズ整理票の記入について

別紙3

この書式は、令和2年度から実施されている「群馬県相談支援従事者初任者研修（新カリキュラム）」で使用されているものです。本人・家族の夢、希望の実現や課題の解決に向け、どのような支援が必要と考え、そのために支援者（相談支援専門員等）はどう支援していくのか、を“見える化”するものです。現任者の皆さまが日頃頭のなかで整理し考えていることを言語化・可視化することにより自身の業務を振り返るとともに、演習のなかで他の受講生にわかりやすく伝えるツールとして、群馬県相談支援従事者現任研修でも使用することとしています。

基幹相談支援センター等が実施する研修や、初任者研修 OJT の受入れにおいて使われたことがある（目にしたことがある）ことと思いますが、記載方法について以下にまとめますので、事前課題１－③に取り組む際の参考としてください。



令和５年度相談支援従事者指導者養成研修資料より

【手順1】「本人の表明している希望・解決したい課題」を記入します

本人の希望や解決したい問題を具体的に記入します。子どものケースでは、親の意向も記入してください。

ケースによっては、述べていることの意味を考える必要もあります。「仕事がしたい」という希望は、「自由に使えるお金がほしい」かもしれませんし、「人の役に立ちたい」「家族仲が悪いので、ずっと家にいたくない」かもしれません。

【手順2】「理解・解釈・仮説」を記入します

ここには、相談支援専門員が本人や環境についてどのように理解・解釈・推測したかを記入します。

相談支援専門員の主観（一人称）を記入するところです。「誰々が何をした」「IQ は 73」などの情報（客観的事実＝三人称）は記入せず、そこから（私が）どのように理解・解釈したのかがアセスメント（評価）となります。

＊主観の条件…①根拠があること(情報や言動から私は□□と捉えた)

②他の人が納得できる内容

→「（対象者は）こんな人である」「情報や言動から私は（対象者を）〇〇と捉えた」といった、相談支援専門員が理解したことや仮説を立てたことを簡潔に書いてください。

※ケースの概要（主訴や本人の年齢、性別など）はここには記載しないでください。

※本人・家族の意向に関連する内容に絞ってください。

本人

生物的なこと・・・生来的な気質や発達特性、疾患など

障害や疾患等が原因で生じている問題の記入(障害名や診断名だけを書かない)

例）・自閉症スペクトラム症と診断を受けていて、認知的な問題で状況の把握が苦手

・自閉症スペクトラム症と診断を受けていて、同時に2つ以上の事をするのは苦手

・知的障害があり、簡単な事は具体的に説明をすれば理解できる

・統合失調症で、症状が落ち着いていれば、その場にあった対応はできる

心理的なこと・・・不安、葛藤、希望、自己感、認知、内省性、感情統制、防衛機制など

不安や葛藤等が原因で生じている問題、どういう希望や理想があるのか等を記入

例）・穏やかで親切な時とイライラして怒りっぽい時が極端で、気分の波が大きい

・一度にたくさん言われると理解できず、逸脱行動をする

・見通しが持てないと不安になり、いろんな人に電話をしてしまうのではないか

・本人は〇〇と言っているが、本当は□□と思っているのではないか

・能力以上の事を期待されて、本人は辛いのではないか

社会性・対人関係の特徴・・・身近な人たちとの関係、家族や学校・職場への適応など

家族や友人、學校、事業所等の人との関係から見えてくる特徴や問題、本人を取り巻いている環境が原因で生じている問題、強みとなっている特徴などを記入

例）・大勢の中にいるといろんな音が入ってきてしまい、集中ができないのではないか

・厳しい指導には激しく反発するが、話を聞いているくれる人には心を開く傾向

環境

両親、兄弟、祖父母等、本人との関わる人の関係性、学校・福祉サービス事業所・職場等本人が関わっているところの本人との関係性、友人・近隣などとの関係性と、それぞれが本人にとってどういう存在かを記入

※相談支援専門員以外が理解・解釈・推測したことについては「理解・解釈・仮説②」に記入してください。

【手順3】「（作成者の）押さえておきたい情報」を記入します

ここには、【手順2】で相談支援専門員等が見立てたアセスメントの根拠となる情報を具体的に記入します。

見たこと・聴いたこと・データなど、客観的事実のみを記入してください。本人や家族、関わっている人たちから聞き取った情報も含まれますが、その場合は誰の言葉かを明確にしておいてください。

（家族や関わっている人たちの「見立て」は「理解・解釈・仮説②」に記入してください。）

【手順4】「支援課題」を記入します

ここには、相談支援専門員が本人・家族の意向に対して理解・解釈・推測したことから導いた、支援の必要なこと（ニーズ）を記載します。

それぞれの支援目標に対して【手順5】で「対応・方針」を立てることを踏まえ、箇条書きにしたうえで、①②③・・・のように優先順位をつけてリストアップしてください。

＊優先順位の基準

1）緊急性の高い課題

2）実現可能性があること

3）できるだけ本人・家族のニーズに沿っているもの

課題自体はやや抽象度が上がりますが、記入は具体的にお願いします。

まだわかっていないことを明らかにするための課題もあり得ます。

【手順5】「対応・方針」を記入します

ここには、【手順4】で優先順位をつけた支援課題に対して、相談支援専門員がやろうと思うことをそれぞれ具体的に記入します。

「支援課題」の番号（①②③…）と「対応方針」の番号（①②③…）を一致させてください。

「誰が」「どんな方法で」「いつまでに」をはっきりさせておきます。

→本人の生活観（こういうふうに生活したい）、人生観（こんなふうに人生を送りたい）、趣味や嗜好等を踏まえてプランニングしていくことが重要です。

「対応・方針」は、サービスを導入することだけではありません。誰か（サービス事業所や関係機関等）に必要な支援（具体的に明記）をしてもらう、本人にこんなアプローチをする、などでも良いと思います。

「〇〇と連携する」という方針は具体性に欠けるので記入しないようにしてください。

【手順6】「今回大づかみに捉えた本人像」を記入します

ここには、事例の中で出てくるたくさんの情報の中から核心部分となる重要なキーワードを他の言葉とより分けてそのエッセンスをコンパクトに表現します（事例の核心軸をとらえる利用者の想いの要約）。

ケースの概要（主訴や本人の年齢、性別など）も含まれます。

「利用者本人を主人公」として登場させるため、主語を「私は」「僕は」にし（一人称）、相談支援専門員が利用者本人の気持ちを考えて要約します。

＊100 文字程度→85～120 字

ニーズ整理票は、ケアマネジメントの過程で得た多種多様な情報から、現在の支援展開において必要となる情報を取捨選択し、（現在の）本人の思いを軸に構成しながら活用することが重要です。これにより、本人理解を深めることにつながります。また、支援者が自身の考えを整理し、本人や関係者と協力、連携する際の共通理解にも役立ちます。本人の強みと伸び代に目を向けてまとめましょう。

出典 ： 障害者相談支援従事者研修テキスト初任者研修編
医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック　第3版
令和5年度 相談支援従事者指導者養成研修　資料

※この記入例は、スクールソーシャルワーカーの立場で作成されたものです。

ニーズ整理票（記入例）

イニシャル	○・○	受講番号	GSG-○○○	氏名	○○　○○

インテーク

情報の整理
（見たこと、聴いたこと、データなど： 事実）

本人の表明している希望・解決したい課題

・本人は登校したいとも思っているが、クラスにいるのはつらい

・父に怒られるのが怖い

・父は、本人にしっかりしてほしいと思っている

・母は、父の叱責がやや行き過ぎているのではと心配している

（作成者の）おさえておきたい情報

・小学校低学年から全般的な学業不振
・遊びや好みが幼い
・下級生と遊ぶことが多かった

・よく「どうせぼくなんか」と言う
・授業がわからないと泣くことがあるが、支援学級の活用を勧めると渋る

・友だちに強がってみせるので、からかわれやすい
・遊びに誘われなくなり、休み時間は独りで過ごしている

・声をかけてみると、友だち関係や家族のことをいろいろと話す

・父は特別支援学級の利用を勧めた小6担任に激怒した

・母は「お父さんが無理を言うのが心配」と話している

・担任は「怠け」「できることもやろうとしない」と強調するが、指導についてはスクールカウンセラーや専門機関に相談したいと言っている

・からかい、ちょっかいを出す男児が数人
・からかいを止めようとする女児も数人

アセスメント

理解・解釈・仮説
（作成者のとらえたかた、解釈・推測）

本人

【生物的なこと】

・生来的な知的発達の遅れがありそう

【心理的なこと】

・周囲についていけないことで傷つくことが多く、自信をなくしていると思われる
・学校生活がつらくなっているが、特別扱いされたくないらしい（父の意向を気にしているのかもしれない）

【社会性・対人関係の特徴】

・平均的な同年代集団の中で楽しみを共有できる機会が減ってきている

・困っていることを相談できる相手がほしいらしい

環境

・父は本人の知的発達の遅れを否認する傾向が強いものと思われ、しつけや指導は感情的になりやすい

・母親がキーパーソン

・担任は、知的の遅れという視点をもっていないが、助言は受け入れてくれそう

・クラスメイトのからかいやちょっかいは登校を渋る一因になっていると思われるが、味方もいるらしい

理解・解釈・仮説②
（専門的アセスメントや他者の解釈・推測）

・担任は知的な遅れがあるとはあまり考えていないようだが、本人の対応については専門機関に相談をしたいと考えている

支援課題
（支援が必要と作成者が思うこと）

①家族の背景（特に父親が本人に厳しく当たる理由）を把握する

②本児への心理的サポート

③味方になってくれる友だちを増やし、からかいを減らす

④本児の発達上の問題を両親と共有し、知的能力の評価と特別支援教育の活用へ

プランニング

対応・方針
（作成者がやろうと思うこと）

①母親との定期面談

②スクールカウンセラーによる隔週30分の面接
　→友達や家族との関係をめぐる心境を聴き、助言

③担任に依頼し、味方派、からかい派のメンバーと話し合いの機会をもってもらう

④スクールカウンセラーの所見をわかりやすくまとめた上で、まずは母親、できれば父親を含めた面接を設定（父親に対して知的発達の話題は要注意）

今回大づかみに捉えた本人像（100文字程度で要約する）

僕は、もともと明るくて活発な性格だけど、中学に進学してから思う通りにいかず、周りには怠けていると思われ、学校生活に馴染めなくなり学校に行くのがとても辛くなってしまった。でも行かないとお父さんに叱られるから、何とか行けるよう手助けして欲しい。（120文字）